旧山古志村（新潟）の15人

タオル掛け作り 交流

西原村・小森仮設団地を訪問

２００４年の新潟県中越地震で全員が避難した旧山古志村（現長岡市）の住民有志15人が25日、熊本地震で被災した西原村の小森仮設団地を訪ね、タオル掛け作りや茶話会などを通じて交流した。

講師役は、阪神大震災後に神戸市で始まった被災者支援の「一本のタオル運動」を実践した山古志のグループかたくりのメンバー3人。団地の入居者とおしゃべりをしながら、1枚のタオルを使って、ゾウの縫いぐるみ付きのタオル掛け「もーまけねぇぞう」を縫い上げていった。

グループ代表の草間綾子さん(71)は「手芸を楽しみながら、自分たちも経験してきた仮設暮らしの悩みや不安を聞いて、少しでも和らげたい」と笑顔で話した。

住民有志は、団地約300世帯全てに山古志で収穫されたコメ1キロと餅500グラムを配った。（横山千尋）

旧山古志村の住民有志（左）からゾウの縫いぐるみの作り方を教わる小森仮設団地の入居者ら＝西原村